

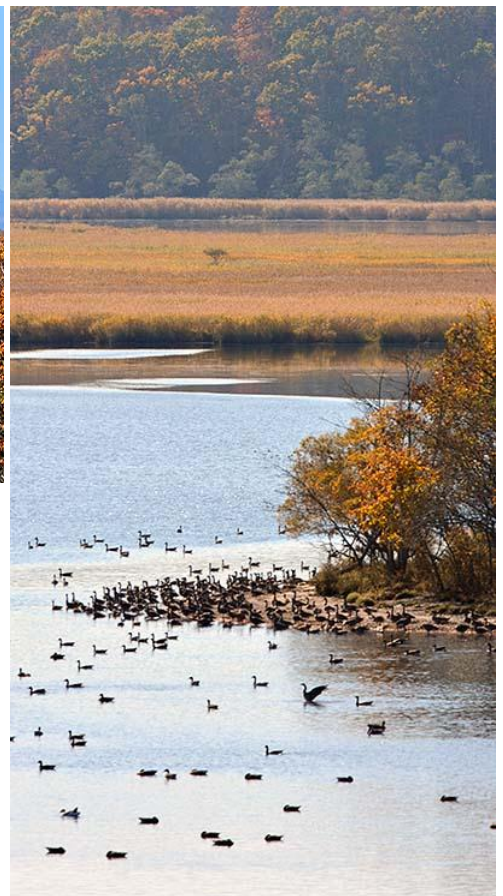
月刊 やちまなこ

2014.10.15 発行

No. 203

10月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

3年ぶりに皆既月食を見た。銀色に輝いた満月は徐々に欠け始め、やがて赤銅色の月が湿原の夜空に浮かんだ。やがて周りの星々が一斉に輝く頃、冷たい夜風とともにエゾシカやキタキツネの鳴き声が聞こえてきた。

コッタロ川と湿原のほとりから

172 10月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住. 中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

『秋山明浄にして粧うが如し』の名言通りに我家を囲む全山の稀に観る錦秋と、眼下に広がる湿原の“北ヨシの黄金のうねりうねり哉”の景色にうっとりさせられます。それもそのはず10月8日初めての氷点下2℃に伴う初氷で山も湿原も一気に色付きを深め、暴風さえ吹かなければ絶妙都雅な風景を一日延ばしに眺められるのですが……。

ところで去る9月20日、何年かぶりに初来訪したシマリスに続いて10月4日2匹目3匹目と相次いで現われ今日に至っております。恐らく例年にないヒマワリの実の豊作に吸い寄せられたのでしょう。時に仲良くくっついていたりと思えば追いつ追われつの鬼ごっこや水をのんだり、余裕のある冬仕度にこちらにもんまり。そこで一句“窓越しにリスと寒露の朝を食む”。両頬をめいっぱい膨らませ貯食にいそむ今は、来客の皆さんのアイドルとして“可愛い症候群”に陥らせておりますが、11月4日頃土中に掘った巣穴に入って眠りにつくことでしょう。そうなれば来春（4月初旬）迄お目にかかることは出来ませんね。

さて、コッタロは思いの外、山も畑も出来秋で早くも秋耕こし真最中のところ、地中から掘り出された昆虫の幼虫達をあわてて土中に戻さねばならず大わらわ。その中に見たことのない1匹がいて、一瞬あのカフカの「変身」に出てくる毒虫を連想したではありませんか。写真の不気味な美しさの個体は、よくよく調べてみると、オオルリオサムシの幼虫でした。成虫は標茶では普通にみかける昆虫ですが、羽化する前の姿は似ても似つかぬしろものですね。

日暮れが早くなり昼夜の温度差もちぐはぐな季節、体調管理を万全にして冬将軍を迎えようではありませんか。



湿原の住人たち その163

シジュウカラ

秋になり、あるこっと周辺では、せわしなく木々の間を飛びまわるシジュウカラの姿をみかける機会が多くなってきました。一年を通して見られる鳥ですが、



子育て期間以外はカラの仲間のゴジュウカラやハシブトガラ、ヒガラと混群でいるようです。冬に餌台を設置すれば常連として通ってくるため観察しやすい鳥です。スズメくらいの大きさで、胸にネクタイのような黒い帯があり、雄の方が雌よりネクタイの幅が太いことで雌雄の区別が付きまします。白と黒の色が目立ちますが、よく見ると緑色の部分もあり、光が当たると何ともいえない美しさです。

塘路湖畔歩道、ここに注目！



9月8日にオープンした「塘路湖畔歩道」のみどころを少しずつ紹介します。今回は、あるこっとのベランダ前にある起点から解説看板2周辺の木のことです。歩道沿いにはミズナラ、ハルニレ、ヤチダモなどの木があり、中には幹周りが2mを超すものもあります。写真左のハルニレは270cm、右のミズナラは255cmあり、近くに立つと存在感があります。昔からこの場所で、多くの生きものを育み、見る者に安らぎを与えてきた、これらの樹木にも注目して散策してください。



ネムネムのさっぽろろうろ日記 Vol.51 「肉食系骨格標本講座」

ハロウィンの季節ですね。この時期になるとあちこちのお店で、カボチャやコウモリ、オバケやガイコツのキャラクターでにぎわいます。だからというわけではないのですが、札幌まで動物の骨格の勉強に行ってきました。

研修ではエゾシカ1頭分の全身の骨が入った木箱を渡されて、2日に分けてひたすらその骨を組み立てて、スケッチしていくという大変マニアックな作業をしました。受講者は仕事柄、骨を見ても「怖い」「気持ち悪い」という感覚より、「何の骨？」「どこの骨？」という興味のほうが強い人たちばかりです。作業中は骨のことしか頭にないと思われがちですが……。

腰の骨を組み立てながら誰かが「この上にサーロインが乗ってるんですね……。」とつぶやいているのが聞こえます。私も首の骨を組み立てていると「シカのコンクってニワトリより食べごたえありそうだな……。」と考えてしまいます。

「骨」を観察すると不思議とそれを取り巻く「肉」が頭に浮かび「今夜は絶対お肉が食べたい！」と頭の中が「肉」でいっぱいになるのです。骨の勉強は大変肉食を刺激するものでした……。

辻 ねむ (標茶町郷土館学芸員)

9がつ 27にち

ばしょ さっぽろ



みっちり骨の勉強をしたあと、夕飯は牛のホホ肉にかぶりついた私。

